

## これまでの議論のとりまとめ（案）

丹波地域で暮らす人が、丹波の現状をどのように捉え、30年後の「丹波のめざすべき将来像」について、どのように考えているのかを様々な手法で伺った。

### 1 ビジョンを語る会

地域の団体や地元有志グループのメンバーなどで、地域の課題や将来像について車座形式で対話し、ご意見を伺った。

| 日程         | 対象者                  | 参加者数 |
|------------|----------------------|------|
| 2020.9.27  | シリ丹バレーキックオフミーティング参加者 | 11名  |
| 2020.10.22 | 丹波青年会議所メンバー          | 17名  |
| 2020.11.2  | 農業経営士・女性農業士・青年農業士    | 16名  |
| 2020.11.2  | 丹波篠山青年会議所メンバー        | 11名  |
| 2020.11.23 | 丹波地域で子育て中の方          | 13名  |
| 2020.12.19 | 丹波の森大学受講者            | 18名  |
| 2021.6.24  | 丹波篠山市地域おこし協力隊        | 10名  |

#### (主な意見)

- ・醸造職人は季節労働。冬しか稼げない。職人を守るために保障制度の充実などが必要。
- ・丹波は“しっかり”田舎である。このしっかり田舎である丹波の良さを残して発展させたい。
- ・丹波は兼業農家が多い。兵庫の特色として支援して欲しい。
- ・自治会活動の週1回の清掃や集まりは共働き世帯に負担。負担ばかりでなく、福利厚生的な要素を持たすなど入りたいと思える自治会に。
- ・父親の育児参画も必要。残業をなくす声かけなど、企業も取り組む必要がある。
- ・兵庫は住民とともに取り組む参画の精神がある。
- ・丹波の環境が好きで移住してきた者としては、ここに住む若い人が簡単にでていくのが理解できない。地域の魅力に気づいていないのではないかな。

### 2 ヒアリング調査

地域のキーパーソン、先進的な活動をしている事業者、地域団体等へヒアリング調査を行った。

| 日程         | 対象者  |
|------------|--|
| 2020.10.9  | NPO法人 情報社会生活研究所  |
| 2020.10.14 | NPO法人 結  |
| 2020.10.14 | 丹波篠山市商工会   |
| 2020.10.16 | 丹波市商工会   |
| 2020.10.16 | 丹波青少年本部、こころ豊かな美しい丹波推進会議                                |
| 2020.10.26 | 丹波篠山市社会福祉協議会   |
| 2020.10.28 | 丹波篠山観光協会   |
| 2020.11.11 | 丹波篠山市老人クラブ連合会、丹波篠山市婦人共励会、丹波篠山市手をつなぐ育成会、丹波篠山市身体障害者福祉協議会 |
| 2020.11.12 | 丹波市観光協会  |
| 2020.11.17 | 丹波篠山市愛育会   |
| 2020.11.18 | 丹波市社会福祉協議会   |
| 2020.11.24 | 丹波篠山市国際理解センター  |
| 2020.11.24 | 丹波ひかみ森林組合  |
| 2020.11.25 | 丹波市国際交流協会  |
| 2020.11.25 | 丹波市森林組合  |
| 2020.12.13 | 丹波市立 農の学校  |
| 2020.12.22 | 丹波ひかみ農業協同組合  |
| 2021.4.2   | 一般社団法人 神楽自治振興会   |

|           |                           |
|-----------|---------------------------|
| 2021.4.6  | 丹波立杭陶磁器協同組合理事長（雅峰窯） 市野秀之氏 |
| 2021.4.20 | 株式会社大地農園代表取締役社長 大地俎氏      |

(主な意見)

- ・子どもたちが「丹波はふるさとだ」と思える教育が必要
- ・「まつり」を通じた人づくりが地域を作る
- ・「丹波の森」を活かし、「丹波のカラー」を発信していくことが必要
- ・丹波は源流。きれいな水を保つための豊かな森づくりをしていく必要がある
- ・田んぼが太陽光発電施設になるのではなく、バイオマスで地域全体の発電ができるとよい
- ・丹波では、畑作業ができる。この環境が残って欲しい
- ・丹波は一流ブランドのイメージがあり、可能性を持っている。良いものを生産すれば流通もついて回るが、一定の供給量とそのため生産体制が必要
- ・「水分かれ」を「決断」のスポット・聖地にし、そこへ行くまで道を「決断の道」としたい
- ・丹波地域は人間同士のつながりがあるが、今後は地域内の交流が必要になる
- ・女性の登用。女性が元気なまちづくりが必要
- ・二地域居住と言われているが、二つも家もてるのは裕福な人で、体が悪くなったら、簡単に戻ってしまう。
- ・丹波焼きは普段に使う焼き物として発展してきた。新たな技術を上手く取り入れて発展している。
- ・世界へ流通していると丹波は交通の便が悪いと思わない。新たなチャレンジを続け、試行錯誤しながら世界へ発信していく。

3 丹波地域未来デザイン会議（一般社団法人 BEET に委託）

丹波地域にゆかりのある（在住、在勤、在活）20歳～40歳の若者55名が討議を重ねて地域のデザインを描くワークショップを開催し、アイデア集「未来のアイデア1000」を作成した。

| 回数  | 日程         | 場所                      |
|-----|------------|-------------------------|
| 第1回 | 2020.9.13  | 丹波篠山市立四季の森生涯学習センター 大会議室 |
| 第2回 | 2020.10.4  | 丹南商工会館会議室               |
| 第3回 | 2020.11.1  | 丹南商工会館会議室               |
| 第4回 | 2020.11.29 | 丹南商工会館会議室               |
| 第5回 | 2020.12.13 | 丹波の森公苑 セミナー室            |



(主なアイデアワード)

- 1 人口減少 2 新しい教育 3 これからの情報社会 4 未来の交通システム 5 丹波は自然がある  
 6 スローライフができる 7 農業ができる 8 今後も続く丹波の観光 9 歴史文化残る 10 雇用が守られる  
 11 移住を勧める空き家対策 12 思いをつなぐ高齢化社会 13 次につながるコミュニケーション地域  
 14 地域のつながり支援 15 災害のない地域

4 丹波地域未来フォーラム

丹波の森夢会議に参加した人を対象に「未来フォーラム」を開催。一般社団法人 BEET がコーディネーターとなり、「未来のアイデア1000」の中からグループで話し合うテーマを選択し、30年後を描く地域の夢を話しあった。

開催日 令和3年3月14日（日）13:30～16:30  
 開催場所 丹波ゆめタウンポップアップホール  
 参加人数 76名

| 班名 | 選択テーマ     | 結果   |
|----|-----------|--|
| A  | テーマなし     | (他地域に住んだことのある者の視点から)<br>丹波の魅力は、スローライフができる。食。自然のよさ。人との交わり。こういった良さをアピールして2地域居住の拠点となって欲しい |
| B  | コミュニケーション | 病気と犯罪がない社会となり、多世代が交流できる施設が充実する。また、固定したところに永住しないフリーアドレスの社会になる                           |

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| C   | 空き家   | シェアハウスとしての活用や短期間滞在ができる施設に。イベント型の活用（空き家の改修体験）                |
| D   | 農業    | 30年後も土に触れあえる農業があることは大事                                      |
| E   | 空き家   | マッチングアプリで同じ価値観を持つ人が集まるシェアハウスとして活用                           |
| F   | 農業    | 全自動化すれば今の課題は全てクリアする   |
| G   | 空き家   | 空き家が自動保全されるシステムができ、シェアハウスとして活用されている。DIYが楽しめるリノベーションパッケージがある |
| H   | テーマなし | 集中から分散へ（県ビジョン課提案構想試案より）<br>世界から選んでもらえる丹波地域へ                 |
| I   | 雇用    | 30年後は働かなくてもお金をどうにかして生み出せるような選択肢やシステムがあり、生活できているとよい          |
| J・K | 空き家   | 他人の話が聞けて、多様性を受け入れるようになり、2世帯同居が進むと空き家は減る。家庭がオアシスになる関係ができる    |

## 5 若手職員意見交換会

一般事務職はじめ、環境科学職、獣医師、林学職や農学職、建築職 など多様な業種の入庁  
3年目～6年目の丹波県民局内の若手職員（11名）の意見を聞く意見交換会を実施（6／18）

（主な意見）

- ・丹波は森が豊かで特産物も豊か。先端技術を生かせれば、丹波地域の将来は明るいと思う。
- ・最近、フードデリバリーサービスや、カーシェアを見かける。他人の所有するもの、公共的な場所をシェアすることで、社会の効率化にもつながるだろう。住む家も持たなくなる未来がくるかもしれない。
- ・初めて丹波の枝豆を食べたが、とても美味しい。神戸の居酒屋で枝豆を頼んでも満足できないようになってしまった。丹波の美味しいものを全面に出していくことができればよい。
- ・80歳くらいの方がYouTuberで活躍しているのは知っているが、30年後、100歳の方が肉体労働をする社会になっているのだろうか。
- ・現役で100歳までずっと働くとなるとしんどいと思う。一方で、力を借りつつも好きなことができるのは面白いと思った。
- ・丹波を車で移動するにあたって、いつでも混んでいることはない。空飛ぶ車や自動運転は都会での移動の過密を避けるには有効なのかもしれないが、その意味では、丹波ではあまり普及はしないのではないかと感じた。
- ・丹波は「都会に近い田舎」。都会は、生活の利便性が高く、関係人口が多い。田舎は、日本古来の原風景が残っていて、人のつながりがしっかりできている。グローバルの考え方や環境問題などに、地域として何ができるのかということにも注目している。
- ・人造肉や陸上養殖などがもし実現すれば、今の農業がガラッと変わるのではないかと。
- ・コミュニティの形成は必要。家庭を重きにした場合は住んでいる地域とのつながりが重要になる。起業や生活する場所を選ぶ理由は人それぞれだが、そこで、それぞれに地域の強みを生かすことができればよい。
- ・定年退職後農業をして過ごそうかと思っていたが、どうやら70歳くらいまでは働かないといけないうつだ。その後にボロボロの体で農業をするのも難しいかなと思っていたので、ロボットに支援してもらいながらなら可能かなというところで期待を感じた。
- ・同世代の友人でも、就職して一生同じ仕事で働きつづけると考えている人はあまりいない。ライフステージに合わせて、働き方や働く場所を変えていけるとよいと思う。

### 30年後の望ましい丹波地域に向かって一番大事なキーワード

楽農 発想力、想像力 人 風景 日本に丹波あり つなげる  
MORITEC つながり スマート 自由 コミュニティ 一人多役

## 6 庁内ワーキング会議

丹波県民局の班長、所長補佐級による庁内ワーキング会議を開催

（6/23）施策との比較、未来ストーリーの作成検討

（7月）ワークショップ

（8月）ストーリーの確認

## 7 検討委員会

- ・ 7/28 第1回検討委員会（委員長の選任、検討の進め方、資料データの提供）
- ・ 12/3 第2回検討委員会（将来構想試案骨子案の説明、丹波地域意見徴収の記録の報告、更新データの提供）
- ・ 3/8 交流・元気分科会
- ・ 3/16 絆・安全安心分科会
- ・ 3/19 自立・次代分科会

### 7/28 第1回

- ・ ビジョンは、何に使われるのか、どんな役目を果たし、どういう位置づけになるのか  
→地域ビジョン委員のこれからの活動の指針や、丹波地域がこれから目指す将来像の指針となり、予算要求の根拠にもなる。ビジョンの推進のために、行政に任すのではなく、地域の人が自分ごととしてビジョンの推進のためにしっかり活動してくださいね、という意味にもなる。
- ・ ビジョンや計画をつくるのは手段であり、目的ではない。ビジョンをつくって、その後地域をどのように変えられるかが本当の目的になると考える。
- ・ 前回のビジョンでは何ができなかったのか、社会環境がどのように変化したのか、など考え、20年、30年先を我々で議論していきたい。
- ・ 各委員が、SNS等で委員会の様子を発信・情報収集して、丹波地域全体で作り上げたビジョンだという意識づけをしていく必要がある。
- ・ 「実践者を増やしていく」という視点から、ビジョンを考えることも必要なのではないか。

### 12/3 第2回

- ・ 将来構想試案はもう少し、課題を抱える部分に目を向け、支援するという姿勢を示してほしい。
- ・ 将来構想試案は総花的で、兵庫県の独自性を感じない。地域ビジョンで独自性を出していくのであれば、そういったこと、地域ビジョンとの関係性を明確に示していただきたい。
- ・ 丹波地域の指標については、アウトプット、アウトカムでまとめてみるなど整理しないとイケない。数だけでは傾向はわからない。
- ・ ヒアリング内容を5つの目標に関連付けて定性的な評価としてまとめてみてはどうか。
- ・ ビジョンと施策のミスマッチがある。ビジョンと施策の関連性が不明瞭のまままきている。
- ・ 将来構想試案の未来シナリオに現場の暮らしの中での課題解決が見えてこない。
- ・ 夢がないとイケない。しかし夢ばかりでもイケない。8050問題などもあるが認識できているか。
- ・ 誰のためのビジョンなのかという軸をしっかりした上で議論したい。

### 3/8 交流・元気分科会

メンバー（敬称略） 清水夏樹、安達鷹矢、足立雄一郎、構井友洋、鈴木克哉、瀧山玲子、中川ミミ（欠席）、宮垣良一

検討分野 （交流）移住、空き家問題、自然・環境、関係人口  
（元気）農業、林業、商業・労働、観光・ツーリズム・六次産業、

### 3/16 絆・安全安心分科会

メンバー（敬称略） 上南木昭春、岸孝明、清水徳幸、瀧山玲子、竹見聖司、谷水ゆかり、土性里花（欠席）、中川ミミ

検討分野 （絆）高齢化・高齢者、多世代・家族、つながり・個人の尊重、地域の生活文化  
（安全安心）災害・防災、安全な食、ユニバーサル(外国人)、男女共同参画

### 3/19 自立・次代分科会

メンバー（敬称略） 角野幸博、安達鷹矢、岸孝明、清水徳幸、鈴木克哉、竹見聖司、谷水ゆかり、土性里花（欠席）

検討分野 （自立）教育・学び、情報社会・テクノロジー、地域自治、まちづくり、ソーシャルビジネス  
（次代）子育て、循環型社会、集落、ライフスタイル、次代への意識づくり

様々なご意見の記録をテキストマイニングを使って、着目されているワードを抽出し、そこから「森」「農」「人」に注目されていることを導き出した。

さらに、丹波地域は30年にわたり、「丹波の森づくり」を進めており、これからも「丹波の森」次代に繋いでいく必要があることから統一のテーマを「継なごう 丹波の森づくり」として進めていくこととした。このテーマに沿って、地域づくりを進めるために各方面で30年後のシナリオを描いていく。